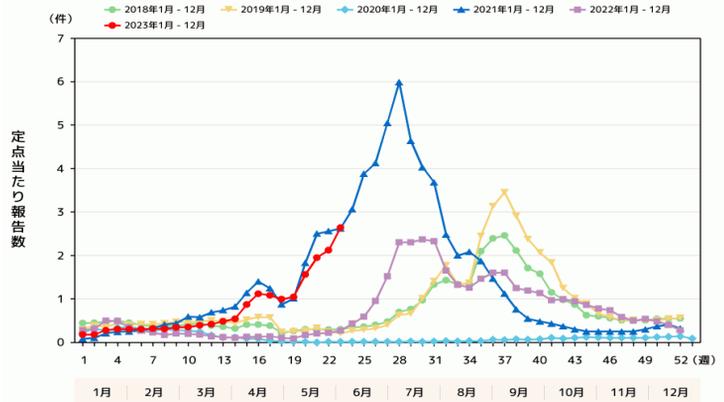


## RSウイルス感染症とシナジス（パリビズマブ）筋注液について

## ◎RSウイルスとは？

RS（Respiratory Syncytial）ウイルスは、**呼吸器の感冒症状**を引き起こすウイルスの1つです。何度も感染と発病を繰り返しますが生後1歳までに半数以上が2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスに少なくとも1度は感染します。

新型コロナウイルス感染症が流行した初期の**2020年は、人と人の接触機会が減ったこと**によりRSウイルス感染症の流行がみられなくなりましたが、その後、人との接触機会が増えたことや、RSウイルスにさらされる機会があった子どもが少なかったことなどから、**2021年の夏は大流行**がありました。元々は冬の感染症として知られていましたが、この**約5年間では夏から秋にかけて感染**が増えています。



出典  
国立感染症研究所：感染症疫学センター「感染症発生動向調査速報データ」  
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>) [2023年06月20日確認]

## ◎症状

- ・乳幼児に好発

初感染乳幼児の**約7割**は、風邪のような症状が出て数日のうちに**軽快**しますが**約3割**は咳が悪化し喘息発作のような**ヒューヒュー、ゼーゼー**といった呼吸苦（喘鳴）をきたすことがあります。さらに乳幼児や、基礎疾患、免疫不全が存在する場合には**重症化のリスク**が高まります。

小児  
乳幼児

潜伏期間  
(2~8日間)

発症

発熱、喘鳴、鼻水  
(数週間)

ヒューヒュー  
ゼーゼー



△このような時には病院を受診しましょう

- ・脱水が起きている時  
(唇が乾燥する/おしっこの量が少なくなる/脈が速く、弱くなる/手足がひんやりする)
- ・呼吸状態が悪くなった時  
(**陥没呼吸**：吸気時に肋間腔や剣状突起下が陥没、**鼻翼呼吸**：吸気時に鼻翼が拡大など)



ペコペコ

## ◎治療

現在、RSウイルス感染症に**有効な抗ウイルス薬はありません**。そのため**対症療法**が基本です。RSウイルスの単独感染で症状が軽症の場合には**抗菌薬はほぼ不要**です。ただし、ウイルスによって発熱や咳などの症状が現れて回復した後に、二次性の細菌感染症を起こすことがあります。こうしたケースでは抗菌薬を処方するケースもあります。

## 対症療法

- ・高張食塩水、気管支拡張薬（ $\beta_2$ 刺激薬）の吸入→ネブライザーを用いて吸入する。痰がやわらかくなり体外に排出しやすくなる。
- ・鼻水や痰の吸引
- ・点滴→水分や食事が摂れず、脱水症状がある場合
- ・酸素投与→呼吸が浅い、呼吸状態の改善がみられない場合



## ◎対策



・感染経路を把握して対策しましょう

RSウイルスは飛沫感染や接触感染によって感染すると考えられています。

RSウイルス感染症の感染を予防する方法は、手洗い、手指消毒（アルコールや塩素系消毒剤）、マスク、3密回避などで、新型コロナウイルス感染症の予防対策と同様です。



・モノクローナル抗体製剤



感染によって重症化するリスクの高い基礎疾患を有する小児や生後3か月以内の乳児への感染には特に注意が必要です。

下記のようなハイリスク児に対してはモノクローナル抗体製剤をあらかじめ投与し、重症化予防を図る。



商品名：シナジス筋注液

一般名：パリビズマブ

分類：抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体製剤

適応：

- 在胎期間28週以下の早産で、12ヵ月齢以下の新生児および乳児
- 在胎期間29週～35週の早産で、6ヵ月齢以下の新生児および乳児
- 過去6ヵ月以内に気管支肺異形成症（BPD）の治療を受けた24ヵ月齢以下の新生児、乳児および幼児
- 24ヵ月齢以下の血行動態に異常のある先天性心疾患（CHD）の新生児、乳児および幼児
- 24ヵ月齢以下の免疫不全を伴う新生児、乳児および幼児
- 24ヵ月齢以下のダウン症候群の新生児、乳児および幼児

用法・用量：流行期を通して体重1kgあたり15mgを月1回筋注

## ◎子供に流行する他の感染症

	症状	かかりやすい時期など
RSウイルス感染症	発熱やせきなど かぜのような症状	ほとんどが2歳までに 少なくとも1度は感染 赤ちゃんでは 重くなることも
手足口病	手や足、口の中に 発疹ができる 軽い熱が出ることも	主に5歳以下が感染 まれに髄膜炎など 引き起こすことも
ヘルパンギーナ	38度超の発熱 口の奥に水ぶくれ のどの痛み	1歳から4歳くらいが かかりやすい 夏に患者が増える
ヒトメタニューモウイルス感染症	発熱やせきなど (RSウイルス感染症 と似た症状)	肺炎や気管支炎を 引き起こすことも

子供に流行する感染症の主な症状と特徴は左のとおりです。このほか、現在では新型コロナウイルス感染症との区別も気になるところです。RSウイルス感染症も新型コロナウイルス感染症も主な症状は発熱、咳、鼻水の3つであり同じような症状がみられます。そのため症状だけで両者を判別するのは難しいと言えます。患者の周りに感染している人がいるかどうかの情報が大切で、それぞれのウイルスの検査を受けて判別をします。

参考資料

厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」

「小児RSウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン2021」

「RSウイルス感染症と手足口病を知り薬剤の適正使用を」

「知っておきたい！家庭の感染と予防」サラヤ株式会社より

「呼吸障害」「呼吸器のフィジカルアセスメント」看護roo!より

病気がみえる15小児科「RSウイルス感染症」

薬剤部

薬学実習生 本中野

指導薬剤師 徳丸